

令和7年度第3回柏市環境審議会会議録

1 開催日時

令和8年1月26日（月）午後2時から午後4時まで

2 開催場所

柏市役所分室3 2階 第4会議室

3 出席者

(1) 委員

青柳会長，野田副会長，愛知委員，小野委員，鈴木委員，川瀬委員，松清委員，千田委員，藤原委員，笠原委員，木内委員，染谷委員，富田委員（計13名）

(2) 事務局

後藤環境部長，村松環境部次長兼廃棄物政策課長，阿部環境政策課長，北村ゼロカーボンシティ推進課長，寶田環境政策課主幹，阿竹廃棄物政策課主幹，他5名（計11名）

4 議題

次期柏市環境基本計画（素案）について

5 議事（要旨）

次期柏市環境基本計画（素案）について
資料に基づき，事務局より説明。

その際に表明された主な意見は，次のとおり。

（以下，委員意見）

（青柳会長）

- ・ 22・23ページのイラストは未完成で，まだ描きこみが行われるものと捉えて良いのか。

⇒（事務局）

- ・ 修正の可能性はあるが，基本的に現在の方向性で作成を進める予定である。

（野田副会長）

- ・ 22・23ページのイラストにテキストは入るのか。これだけでは少々分

かりづらい。イラスト内で紹介されている程度はテキストを記載しても良いのではないか。

⇒（事務局）

- ・テキストが多くなると分かりづらくなるため、程度は調整しながら、記載を検討したい。

（青柳会長）

- ・6ページに柏市の水系・河川状況を示した図があるが、22・23ページのイラストではそれらがどこにあるのかよく分からない。柏の環境という側面から見て重要な場所は、どこにあるのか分かるように描いてほしい。市民も、絵に描かれているものが何か分かると実感が湧いてくると思う。市民にいかに実感を持ってもらうかといった視点や、書き方があると良い。

（木内委員）

- ・22・23ページのイラストは、余白に基本方針や基本目標の文言等を入れれば、目指しているまちの姿が分かりやすいのではないかと思う。

（青柳会長）

- ・「柏市第六次総合計画」で示されている「リーディングコアシティ」を基本方針に位置づけたことで、市としてどのような方向性を目指すのか明確になり良かった。25ページの分野の関わり合いの図にも説得力が出た。環境問題だけを考えているのではなく、市全体の中で環境政策を考えていることが分かりやすい。

（愛知委員）

- ・基本目標「地球環境」の基本施策1「エネルギーの効率的な利用の促進」について、消費エネルギー量を指標にしてほしい。
- ・温室効果ガス排出量は、再エネを導入していけば、エネルギー自体を大量に使っていても削減可能であるが、それはエネルギーの効率的な利用とは異なる。エネルギーの効率的な利用促進という観点から言うと、エネルギー使用量を減らすことが直接的ではないかと思う。
- ・地球温暖化の緩和策は、再エネの導入と、エネルギーの効率的な利用（省エネ）を両輪で進めていくことになるが、そもそもの消費エネルギーが削

減されれば、太陽光パネルの設置も抑えられる。再エネの導入を重点施策にするのも良いとは思いますが、省エネを打ち出していくことが非常に重要である。

⇒（事務局）

- ・ 公共施設の脱炭素化について示した「柏市役所ゼロカーボンアクションプラン」においては、公共施設の温室効果ガス排出量について、基準年度（2013年度）比52.4%の削減を目標としており、うち電力購入量の削減等が44.2%、照明のLED化が2.7%であり、合計47%が省エネによる削減見込みであるため、省エネの重要性は承知している。
- ・ 本計画は「柏市役所ゼロカーボンアクションプラン」の上位計画に位置付けられるため、省エネだけでなく、創エネの取組も含めた市役所全体の達成度を可視化する観点で、「公共施設の温室効果ガス排出量」を指標としたい。
- ・ 今後、環境審議会等において環境基本計画のフォローアップを行う際には、省エネの部分、電力購入量の削減等についても、併せて報告をしたい。

（愛知委員）

- ・ 基本目標「地球環境」の基本施策1に、エネルギー使用量をもう1つの指標として併記することは可能か。
- ・ 重点施策の指標（再生可能エネルギー導入目標）と温室効果ガス排出量は要素的に重複している。削減量の内訳を示す等も検討してほしい。

⇒（事務局）

- ・ 創エネと省エネで分けた指標とするより、「柏市役所ゼロカーボンアクションプラン」の指標をそのまま採用することを考えている。他の施策とのバランスも考慮して検討したい。
- ・ 「柏市役所ゼロカーボンアクションプラン」の成果ということで、項目ごとの削減見込量を出すことは1つの考えとして検討したい。

（鈴木委員）

- ・ 基本目標「自然環境」基本施策1「多様な自然環境の保全」の計画目標値「市内の自然共生サイト面積」について、30%増加とした理由を聞きたい。

⇒（事務局）

- ・国が掲げている30 by 30の考え方（2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標）を取り入れている。市民活動団体，地権者，関係者等と相談しながら，自然共生サイトへの登録に向けて検討を進めていく予定である。

（鈴木委員）

- ・30 by 30は，全体の30%を保全するという話で，現状から30%増やすということではない。
- ・現状から30%増を実現できる根拠があるのであれば，それを説明してもらえればと思う。

⇒（事務局）

- ・市内には，既に自然共生サイトに認定されている下田の杜があるほか，市民団体等が自然環境の保全に努めているエリアが複数ある。地権者や市民団体など，関係者の意向を確認，相談の上取り組んでいけば，30%以上の増加が実現する可能性はあると期待している。ご意見を踏まえて計画目標値は再検討をする。

（青柳会長）

- ・基本目標「自然環境」基本施策1の指標は，45ページのコラム「自然共生サイト・生物多様性の増進活動について」に基づく指標ということか。
- ・柏はまだ自然環境が多く残っている。この自然を未来へ残すために，積極的に取り組んでもらえると，10年後，20年後，市のブランディングに非常に貢献するのではないかと思う。

⇒（事務局）

- ・基本目標「自然環境」基本施策1の指標については，ご認識の通りである。

（川瀬委員）

- ・こんぶくろ池のコラムについては，NPOが伝えたい思いもあるため，文章の修正依頼を出したい。
- ・基本目標「自然環境」重点施策「生物多様性の保全」について，特定外来生物の防除を積極的に行うと書かれているが，生物多様性の保全において一番大事なはその場所や，面積，質だと思う。私たちも自然環境調査をしていて，面積の減少を感じており，重要であると思う。言葉としては

入れないのか気になる。

- ・計画の文章の中で「生きもの・植物」という表現があるが、生きものの中に植物は入らないのか。他に「動植物」も語句として登場するため、表現を統一してほしい。

⇒（事務局）

- ・コラムは、保全活動をされている方々のお気持ちを踏まえた内容とするためため、ご相談の上修正したい。
- ・柏市は、人口増加と開発に伴い、自然を構成する要素は少しずつ減っている。今後は、市内で残すべき自然の拠点を検討し、経済活動と自然環境保全のバランスを図るようになる必要があると認識している。基本施策1の指標として自然共生サイトの面積を設定しているが、重点施策にもかかわる重要な要素だと認識している。
- ・生きもの・植物等の表現については、「柏市生きもの多様性プラン」に基づき整理・統一する。

（青柳会長）

- ・39ページの下から2番目の段落には、自然環境の面積の減少について書かれてはいる。
- ・「珍しい」「希少な」等の文言はつかない、我々が普段目にしている、身近な自然が減っていることも問題である。それも生物多様性の保全においては重要であることを強調しても良いのではないかと思う。

（染谷委員）

- ・循環型社会について、人はいろいろなものを食べ、それをエネルギーとしてたり排泄したりしている。私は農業を営んでいる。自分たちの作ったものが人の力になり、残ったものがまた土に還ることが大事だと思うため、取組を進めてほしい。他地域の企業では、食品廃棄物を発酵させたガスで電力を作り、残渣は肥料化して農業に活用している例もある。柏でも、周りをリードするような、循環型社会ができれば良いと思う。市内でも食品廃棄物を集めて堆肥にしている企業がある。その取組を発信し、活動を進めていただければと思う。

⇒（事務局）

- ・食品残渣の堆肥化や、食品残渣を用いた創エネルギーの取組等が行われていることは認識している。柏市においては、54ページのとおり、家庭か

らの生ごみについて、処理容器の購入補助事業を実施し、市民の取組を促している。事業者に対しても同様の働きかけができないか検討中である。また、新しい清掃工場においてはそのような機能の追加等、より循環型社会に貢献していけるような仕組みを検討している。

(青柳会長)

- ・新しい試み等も次期計画に書きこまれると良いと思う。

(松清委員)

- ・リボン館の活動は、柏市リサイクルプラザリボン館運営委員会という市民団体が活動を行っているが、高齢化の問題がある。循環型社会・リサイクルは特に市民生活に密着した問題であるため、市民の相互の啓発や学習機会がもう少し普及しても良いのではと思う。
- ・出張リボン館参加者数が指標に設定されているが、これに絞ったのはなぜか。
- ・リボン館の運営に関しては、市がしかける部分も必要であると思う。教える側の育成や、団体の世代交代等について、今後どうしていくか触れても良いのではと思う。
- ・リボン館は熱心に活動しているが、今の子育て世代が参加したい活動なのかは評価が分かれるところだと思う。若者世代が参加したくなる内容にするには、若者世代が企画の運営側に回っていく必要がある。そのような人材を育成する講座等が開設されると良いと思う。行政側の方でもコミットしてもらえると良い。

⇒ (事務局)

- ・出張リボン館参加者数を指標に設定したのは、啓発施設であるリボン館の認知度がまだまだ低く、市として力を入れているからである。
- ・リボン館運営委員会の高齢化、啓発の担い手の育成は大きな課題である。いただいたご意見を参考に、担い手の育成、教える側の育成についても取り組んでいきたい。

(松清委員)

- ・環境教育・学習は、市民の活躍という意味でも重要である。67ページにもあるように、市民は、環境について学べる機会が充実していないと感じており、少なくとも学びの機会は提供していかなければならないと思う。

さまざまな立場の人が動く必要があり、指標の設定は難しい。指標は「行政・事業者・地域等と連携した環境教育への参加学校数」で良いのか悩むところだが、もう少し何か書くことができれば良いと思う。

- ・市の方で、民間の取組も含め、環境学習や環境活動の一覧を確認できるもの、カレンダー等があれば参加を促進できるのではないかな。

⇒（事務局）

- ・市民が環境について学べる機会が充実していないと感じている点については、行政や事業者、市民団体それぞれが行っている環境教育の取組がうまく伝わっていない部分もあるのではないかと考えている。各種環境活動を整理し、情報発信を強化することで、環境活動に興味がある方を掘り起こしていきたい。また、他分野の方々と連携し、新たな講座の検討等を進め、環境教育を充実させていきたい。
- ・ご指摘のカレンダーなど、環境学習や環境活動等のイベントを確認できる仕組みの整備について、検討を進めていきたい。

（青柳会長）

- ・77・78ページのイラストに、市民活動や環境教育、人と人が触れ合うような場、染谷委員がおっしゃった循環の場等が描かれていると良いのではないかな。

⇒（事務局）

- ・78ページ上段の「まちなか」イラスト右上で、環境保全活動や環境イベントへの参加の様子を表している。環境教育に関しては、「職場・学校」イラスト内における表現を検討したい。

（鈴木委員）

- ・基本目標「環境共創」のページがコラムから開始しており、他と異なる点が気になる。

⇒（事務局）

- ・今回新設した分野である「環境共創」を解説するためコラムを初めに配置しているが、構成は再度検討したい。

（川瀬委員）

- ・ネイチャーポジティブ経営に関して、今後は企業との連携も活発になると思う。昨年末に、かしわ環境フェスタというイベントが開催され、市民団

体間の交流の場にもなった。市民団体どうしのコミュニケーションは比較的スムーズに行えるが、企業と市民団体の連携となると、ビジネス用語と、団体が使用する専門用語がうまくかみ合わず、意思疎通が難しいところがある。とはいえ協働は進めていかなければならない。両者の間に立って連携を支援する仕組みや組織があれば良いと思う。

⇒（事務局）

- ・基本目標「環境共創」基本施策1「市民や事業者等とのつながりと共創・協働の推進」の主な取組の内容2つ目の「活動の枠組の構築を検討」には、企業と市民団体の連携も含まれる。この枠組みに、生物多様性のコーディネーター制度や組織作りも入ると考える。まずは調査研究を行ってきたい。

（小野委員）

- ・二次元コードが埋め込まれており、読みながら情報にアクセスできる点は良い。一方、計画書前半には掲載が少ないため、工夫の余地があると思う。
- ・6ページの水系の図と文章が一致しない。
- ・22・23ページのイラストについて、北部クリーンセンターはどこに描かれているのか。
- ・89ページの推進体制について、柏市環境審議会の役割が大きいように感じる。これまでの議論を踏まえると、他の主体の役割も含めて検討の余地があるように思う。
- ・本文に書いてしまうと冗長になる事項をコラムにする点は良いと思うが、先に読んだ方が良いコラムと、後で読んでも構わないものをランク付けしても良いと思う。
- ・不法投棄の問題が長年存在している。ドローンを活用した監視について、企業連携、研究開発等も検討していけると考える。

⇒（事務局）

- ・二次元コードは、付け足せる箇所があれば追加を検討したい。
- ・22・23ページのイラスト左上に北部クリーンセンターがある。他の委員からも解説テキストを求める声があったため、対応を検討したい。
- ・87ページに柏市環境審議会の主な役割として、毎年度審議会で柏市環境基本計画の進捗及び成果の審議を行い、重点施策を評価し、基本施策へ意見をを行う旨を記載している。89ページの図は、計画の推進主体をすべて

載せているため、柏市環境審議会の役割が分かりづらい点はあると認識している。

- ・コラムについては、必要に応じて構成の入れ替えを検討したい。

(野田副会長)

- ・計画書の前半は、URLが記載されていても二次元コードが掲載されていない場合があるため、URLを記載する場合は二次元コードも掲載してほしい。
- ・3ページの「計画の期間」について、本計画が市の総合計画にひもづく計画であるならば、将来的には前期基本計画・後期基本計画と分けても良いのではないかと思う。

⇒ (事務局)

- ・URLの記載のみとなっている箇所について、二次元コードを追加する。

(鈴木委員)

- ・22・23ページのイラストは、イメージを共有しやすいように入れたのだと思うが、疑問点が多い。図を見た人が、自分が詳しい部分について疑問を持つ可能性がある。それぞれの地域に愛着が強い人ほど不満が出る可能性がある。また、10年後には、この絵の目指す方向性自体が古くなっている可能性がある。読み手が柔軟に解釈できる図としていく方向性もあると思う。

⇒ (事務局)

- ・22・23ページのイラストは、それぞれの施設やエリアを特徴的に描いているため、該当エリアにお住まいの方等からは疑問が生じる可能性もあると認識している。イラストに解説テキストを求めるご意見を踏まえ、記載を検討したい。
- ・環境基本計画の中間見直しを行う際に、委員の皆様からイラストも含め計画の内容について改めてご意見を伺いたい。

6 傍聴者

6名

7 配付資料

(1) 次第

(2) 委員名簿

(3) 席次表

(4) 柏市環境基本計画（第四期）（素案）